

「十二人の怒れる男」2018.8.28.tue:3 (東山用)

原作…レジナルド・ローズ

上演台本…永妻晃

Bits 1(1、2、3、4、5、G)

一同、客席にお辞儀。變

1 「始めます！」

一同、1に向き直る。

1 「有罪の人は……」

5以外、挙手。

1 「(5に) あの、聞こえてました？」

5 「はい」

十一人、5を注視する。

1 「有罪が十一(一応確認) 無罪は？」

5、手を挙げる。

1 「……一人」

1 (G) 「無罪だと思いませんか？」

3 「父親の胸を10センチも刺した」

4 「証拠は山ほどある」

5 「話し合いましろう」

1 「これは第一級殺人です」

2 「十一人が有罪だって言ってる」

1 「有罪、無罪どちらの評決でも全員一致が条件です」

5 「私が有罪に投票するとあの子は死刑です」

2 「俺たちは奴に借りなんかないぜ」

3 (G) 「何故無実なのか言って貰えますか？」

4 「彼の言葉に無罪の証明はいつさいない」

5 「有罪こそ証明が必要です」

Bits 2 (1、2、3、5)

- 2 「目撃者がいる」
- 3 「下の階の老人が夜中に争う声と人が倒れる音を聞いている。警察が駆けつけると父親が死んでいた」
- 1 「向かいの女性が窓から少年が父親を刺すのを見てます」
- 5 「彼女の部屋は高架鉄道を挟んだ向かいのビル。その時、電車も通過していた」
- 1 「しかし部屋から電車の向こうが見えると証明されています」
- Bits 3 (1、2、5、G)
- 5 「彼はスラム街に生まれ、九歳で母親と死別しています」
- 2 「それで？」
- 5 「父親は文書偽造で服役」
- 2 「それで？」
- 5 「その間彼は福祉施設に預けられている」
- 2 「それで？」

5 「少しは彼の事を考えてやっても」

3 (G) 「『家庭環境』のせいで事件を犯したとしても犯罪は犯罪です」

1 「スラム街の子供は社会の脅威になる可能性があります」

2 「社会に必要ない！」

5 「私もスラムの出身です」

十一人「……」

5 「だからといって彼の味方をする訳ではありません。証言の中に確かな証拠はないと思いますので」

2 「父親の胸に刺さっていたナイフは、少年が買ったと認めてる」

5 「しかし犯人を見たのは女性一人です」

2 「そう、少年を見たと言っている」

5 「ナイフはここにありますか？」

1 「用意させます」

1、ドアの所に行つて、係員に何か言っている。

Bits 4 (1、2、3、4、5)

4 「では順に考えましょう。父親に何度か殴られ」

3 「二度」

4 「二度殴られ。午後八時に少年は家を出た。その後珍しいナイフを  
買い、映画を観て、午前三に帰宅し逮捕された。ナイフは落とした  
と言ってます」

2 「嘘だ」

1、ナイフを係員から受け取ると戻って来る。

2 「たまたまそのナイフを拾った人間が、父親を刺したとでも言うの  
か？」

5 「似たナイフで刺したとか？」

1、一同にナイフを見せる。

1 「珍しいナイフです」

3 「店の主人もこんな『ナイフは初めてだ』と言ってる」

2 「そんな偶然があるか？」

5 「可能性はあります」

2 「奇跡でも起きない限りない！」

5 「じゃ、これは？」

と、同じ絵柄のナイフを十一人に見せる。

Bits 5 (1、2、4、5)

騒然。

4 「どこで?！」

5 「昨夜、少年の家の近くの質屋ゆちやで買ったんです。二十ドルでした」

4 「あるじゃない、同じのが」

5 「もう一度投票しませんか、私を除いて……。有罪が十一なら皆さ  
んに従います」

1 「反対の人は？」

2、手を挙げる。

十人、反対なし。

2 「何でもやってくれ！」

1 「では、投票します。有罪の人は？ (数えて) 十人……。私は、無罪」

2 「あれッ、この野郎?!」

1 「理由を聞きたくないですか？」

4 「聞きたい」

1 「彼(女)は一人で闘った、有罪に確信が持てないからって、その勇気を尊重したんです。話し合いましたよ。10対2」

Bits  
6 (2、3、4、5)

2 「よし、分かった。下の階の爺さんの証言は？」

4 「少年の『殺してやる』と言う声を聞いたと言ってますよ」

十一人、5を注視。

5 「高架鉄道が、ある一点を通り過ぎる時間は？ 一点と言うのは殺

人が起きた部屋です。何秒だと思います」

5、1(?)を見て3に、

「分ります?」

3 「10秒ぐらい?」

5 「約8秒弱です」

2 「何のゲームよ!」

5 「線路際に住んだ経験のある方は?」

4、手を挙げ、

「以前、高架鉄道を見下ろす部屋に住んでいたけど」

5 「電車が通過する時、他の音は聞こえましたか?」

4 「うるさくて何も聞こえやしない」

5 「殺人現場の階下に住んでいる老人が『殺してやる』という少年の声を聞いた直後、人が倒れる音がした。同時刻、向かいの女性が、電車越しに殺人を見ている。だとすると事件が起きた時、電車はち



ようど通過中だった。何かを聞くのは不可能だと思います」

2 「窓が開いてたんだよ！」

4 「窓が開いてたら、よけい聞こえないでしょう」

2 「確かに聞いたんだよ、爺さんは、だからドアまで走って行って少  
年を見んだ」

Bits 7 (1、2、4、5、G)

4 「待つて、老人が“走った”？」

1 「どうしたんですか？」

4 「老人は15秒でドアまで行ったと自慢げに言っていました。老人の足  
取りを覚えていますか？ 足をひきずって証言台へあがってしまし  
た」

5 「(一瞬考えて) やりましょう」

1 「何をです？」

5 「脳卒中で足の不自由な老人が15秒でベッドから玄関まで行けるか

実際に試してみましよう」

5、ポケットから手帖を出し、

「ベッドから寝室のドアまで3.6メートル、廊下から階段のドアまで13メートル、合計16.6メートル。これを15秒で歩けるか？」

2 「歩けるだろ」

5 「老人にしては長い距離です。ここがベッドの位置。(4が立つ)(歩いて)ここが寝室のドア。(1が立つ)廊下を測ります。(玄関までの距離を測る)玄関の位置はここ、(3が立つ)チェーンがかかっていた。秒針付きの時計を持っている方は？」

1 (G)「私が……」

Bits 8 (1、2、3、4、5、G)

5、ベッドの位置につき、

5 「ではいつでもいいですから、合図をして下さい」

1、時計を見つめている。

2 「何を待ってんだよ」

1 (G) 「秒針が上に来るまで……」

2 「(呆れる)」

1 (G) 「どうぞー！」

5 「ベッドから起き上がる」

5、ベッドから老人が起き上がる動作をして、足を引きずり歩き出す。

1 (G) 「5秒経過」

2 「もっと早く歩いてたぞ」

5 「わかりました」

5、少しスピードをあげる。

1 (G) 「10秒経過」

1 (G) は15秒を過ぎてしまうのでそこで止まる。

5、ドアの位置まで来て停まり、

「ドアチェーンを外す、ドアを開ける。ストップ、時間は？」

1 (G) 「41秒です」

2 「……！」

4 「あの老人が嘘をついた？ いや、事件を知って、少年の声を聞き、人が倒れる音がしたと思**い込んだ**。(1に) 倍ばいしんちよう審長、無罪に変える」

2 「なにッ？」

3 「聞いたでしょ、私も」

2 「何だ、こいつら！」

1 (G) 「8対4になりました」

Bits 9 (1、2、3、4)

2 「奴が父親を殺すところを見ている女もいるんだ！」

3 「別人だった可能性もある」

4 「本当に少年だとしたら、逮捕されるのに家に帰って来たのもおか

し」

2 「刺したナイフを取りに戻ったんだろ！」

3 「なぜ、現場にナイフを残したの？」

2 「父親を殺してパニック状態で逃げ出したんだ」

1 「そんなに慌ててましたか？ 指紋を拭き取る冷静さはあった」

2 「お前らどうしたんだ！ 探偵小説でも書こうって言うのか？」

3 「また投票しません？」

Bits 10 (1、2、3、4、G)

1 「では私から、無罪。(居るであろう人に) あなたは？ 有罪」

1、評決を紙切れに書き込んで行く。

1 「あなたは？ 無罪…… (2に) あなたは？」

2 「有罪！」

1 「(居るであろう人に) あなたは」 || (Gに)

(G) 「あ、あ、あ、あ、私、<sup>あたし</sup>無罪です。決まり (にっこり)」

1 「(3に) あなたは？」

3 「無罪」

4 「もちろん、無罪！」

1 「分かりました、6対6」

2 「評決不能にしようぜ、時間の無駄だ」

2、鼻をこすり出す。

Bits 11 (1、2、3、5、G)

3 「(2に) ちよつとお聞きしたいんですが」

2 「……？」

3 「何故、鼻をこするんです？」

2 「気になるからよ」

3 「メガネのせいですか？」

2 「そうだよ」

3 「目撃者の女性も法廷で何度も鼻をこすっていました。彼女の歳は

60？」

1 (G) 「5です」

3 「公の場に出るので若作りをしていた。厚化粧で髪も染め服装も若い女性が着るような物。メガネを掛けるのが恥ずかしかった」

2 「鼻をこすったからって、メガネとは限らないだろう」

1 (G) 「あれはメガネの跡です」

2 「でもな、殺しを見た時は一人で家に居たんだ。若ぶる必要はない」

3 「しかし寝ようとしている時です？」

1 「メガネをかけて寝る人はいないでしょう」

5 「もちろん外してた」

2 「何故分かる」

5 「推測です。彼女が何気なく外を見た時、殺人が起きた。メガネを掛ける余裕はない。彼女を見たという少年はぼやけていた筈です」

2 「遠視だったとしたら……」

1 「18メートルも離れている人間を夜間に確認できる、そんな人<sup>ひと</sup>がい

ますか？」

5 「……これでも少年は有罪ですか？」

(G、無罪の人数を指さし確認をする)

1 「無罪……十一」

5 「(2に) 有罪は、あなた一人だ」

長い間2は黙り続ける、そして、

2、ポツリと、

「無罪……無罪だよ」

一同、ゆっくり客席にお辞儀。

完